

第4回セミナーを7月19日(土)13:30～15:30 に開催しました。参加者の皆さんよりお預かりしたリフレクションをまとめました。

会 場 愛知文教大学 201 教室
テ ー マ 「学び合う学びとICTの活用」
授 業 者 小牧市桃陵中学校 教務主任 丹羽浩一先生
コーディネーター 学び合う学び研究所フェロー 後藤 孝文先生

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、学び合う学びにおいても ICT は、つなぐ道具・追究の道具として有効なツールになりうる。しかし、どこでどう使うかを考えてデザインに入れておくことです。

中1の早い段階で子どもたちがよく話し合っていることに感心。1人1台端末のメリットと注意点をよく考え実践していくことが肝要。紙のメリットもある。

社会科の授業における資料の扱い、子どもの発言（つぶやき）の根拠を大事にしていきたいと思った。また資料の提示の方法や活用も大事。最近、地中海性気候を扱う授業を拝見したが、丁寧だが平板的だった。丹羽先生の Pasta を切り口にするところは、子どもの興味を喚起していたと思う。

桃陵中は教務主任が示範的に授業実践しているのは素晴らしいと感じた。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、ICT は学び合う学びを支えることです。

後藤孝文先生、丹羽先生ありがとうございました。学びは事後的に起きるを今日も実感しました。わからないことばかりでしたが、共有の時間に、ペアの副島先生からたくさん教えていただきました。先生方のお話を聴く中で、次々と新たな問いが生まれ、わからないことは増えるばかりです。セミナー後、丹羽先生とコラボし、リフレクション。少し光がみえた気がしています。ビデオ等で何度も省察しようと思います。すてきな夏休みになりそうです。これからもよろしくお願いします。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、学び合う学びに ICT をどう活用するのかです。

授業動画については、無駄のない授業のように感じた。すぐに本題に入り、グループで学び合う時間もたっぷりあり、生徒にとっては安心して学べる時間になっていた。そのため、各グループでは、様々な疑問や、思考が出ていた。これらの疑問や思考を蓄積することができると、次への学びや探究につながるのではないかと期待できる授業になっていた。ICT をどう活用すべきかは、まだまだ明確なものは見えてこないのが現状だと思う、ただ、PC を使うための授業にだけはしてはいけないと思う。ここを、もう少しみなさんと一緒にいろいろな観点から考えていきたいと思える時間だった。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、「ノートかタブレットか」という二項対立で授業を語れるだろうかということです。

以前から、授業でタブレットに書いた子どもの文章や作品が、卒業、進級、転校などの際、本人にデータが返されないことが気に掛かっていた。今回参加していた伊藤 ICT 支援員が、本人に返る方策は用意されていると聞いて少し安心した。しかし、これまで現場の先生方に聞いた際、明確な返答がなかったことを考えると、「学びの軌跡」としての個人データが本人に返されないのは非常に問題だし、残念なことだと考えている。ノートとの比較にも、この問題があると私は考えている。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、地理や歴史の学習を通して、人々の生きる姿を学ぶのが社会科だということです。

夏は高温で乾燥し、冬は温暖で雨が多いのが地中海性気候と、知識として学んできた私にとっては、丹羽先生の授業は感動でした。地理というと、山脈や平野の名前を暗記したことが思い出され、人間の営みから離れた内容であるような気がしていました。しかし、地理も、その地域で生きる人々の営みが反映されているということを学習させなければ意味がないと思いました。

生徒にとって身近な Pasta から入ったのは、生徒の意欲喚起の方法として、最善なものだ

ったと思います。トマト、チーズ、エビ、イカ、貝などはパスタに入っており、生徒も口にしたことがあると思います。身近なパスタを切り口として、気候、農業、水産業、畜産業との関連まで、生徒たちは考えることができました。

そして、資料をもとにし、そしてグループでの話し合いを通して理解できた学習は、生徒にとって、学びの達成感を感じることができたと思います。「イタリアの人々も、地域の特性を活かして生活しているんだ」と生徒は思ったでしょう。

地中海性気候という地理の学習を通して、そこで生活する人々が、自然の特徴を活かして、生活をしている姿に気づけたのは、社会科の授業として到達しなければならないことだと思いました。地理や歴史の学習を通して、人々の生きる姿を学ぶのが社会科だと強く思いました。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、学ぶのは子どもということです。

1年生の5月、しかも3つの小学校から来ているのに、しっかりと学びのマナーを身につけている子どもたちに感心しました。ワクワクドキドキと言える子ども、グループで顔が自然に集まってくる様子、途切れない会話、学ぶ仲間を大切にする丁寧言葉遣い・・・どれをとっても本当に素敵な教室だなあと羨ましかったです。その要因の一つにあるのは、イタリアを学ぶのにも「パスタ」という生活に結び付いた素材を用いたことだと気づきました。これが単なる地図や資料ばかりでは、きっと子どもたちは途中であきらめてたのでは？と思うのです。食いつける資料で授業作りをされたことが、こういう子どもの様子につながった一因である気がします。やはり素材（国語で言えば学習材）とそれをどう生かすかが授業作りには大切なんだと改めて学びました。ありがとうございました。ICTの活用については、学びの道具の一つでもあるコミュニケーションツールの一つでもあるんだということを学びました。様々な道具がある中の一つと考えれば、何を用いるか（タブレットかノートか、ネットか本や辞書か、タブレットならどのアプリを使うか等）を選ぶのは子ども自身なのではないでしょうか。ノートで、とか紙でとか、ロイロでとかというものを限定せずに、自分自身で選んで学べる人になってほしいと思います。私のクラスにも紙と鉛筆だと全く書き込みができない生徒がいます。本人に聞いたらタブレットの方がいいというので、学習材のデータを送ってタブレットペンで書き込みしています。みんな同じでなくても本人が学びやすいようにすればよいのだとその生徒から学びました。もちろんそのためには使う経験が必要ですから、そういう機会を教師は設けていきたいと思います。間違っても教師の食わず嫌いや思い込みで道具を奪うことのないように心がけていきたいです。